

横浜市立飯田北いちょう小学校 平成30年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学 校 経 営 中 期 取 組 目 標
◆多文化共生の学校づくりを推進します。一人ひとりの違いを認め大切にします。思いや考えを伝え合う・認め合う力を全教育活動を通じて育んでいきます。 ◆個に応じた指導に力を入れ、学力の向上を目指します。 ◆基本的な生活習慣の定着に全校で取り組んでいきます。 ◆地域行事に積極的に参加したり、地域の方から学んだりすることを大切にします。 ◆教職員が互いに切磋琢磨し、チーム飯田北いちょうとして一丸となって取り組む職場にします。 ◆命や身体を守るための指導や防犯対策を積極的に推進します。

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取 組 目 標	具 体 的 取 組
確かな学力 (学習指導)	個々の課題に応じたきめ細かい支援により、言語活動や読書活動等の充実を図り、語彙力や表現力、基礎学力の向上を目指す。	①2回、朝の学習時間に授業の中では深めることができない繰り返しのスキル学習に取り組み、基礎学力の定着を図る、②週1回、朝の読書活動に、地域ボランティアによる「読み聞かせ活動」を行い、日本語独特の語彙や表現力の向上を図る。各学級でも取り組み方を工夫する。③一人ひとりの課題に寄り添ったきめ細やかな少人数学習を行い、学力の向上を目指す。 ④宿題を出し、学年に応じた家庭学習の習慣付けに努める。
担当	研究研修部	

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析

- ・全体的には、学力は横浜市の平均より低い傾向にある。
- ・1、2年生の生活意識・学習意識が大変高い。
- ・1～4年生の学校図書館に行くのが好きな子どもが大変多い。
- ・1～5年生の外国人の先生や友達と英語でコミュニケーションをとることが楽しいと感じている子どもも大変多い。本校が柱にしている多文化共生が根付いていると考えられる。
- ・学校の勉強は 分かる＋大体わかる の数値が市の平均より低く、好きではあるが、理解していないことがわかる。
- ・1日に家で30分以上勉強する子どもはほぼ横浜市の平均(78%)と同じ(76%)であり、低学年では市の平均より多く勉強している。

(2) 教科学習の状況

国語科 AB層併せて33% 全市A層 29%

1～4年生は、好きと答えた児童が全市平均より高い。

算数科 AB層併せて20% 全市A層 29%

2、3年生は、好きと答えた児童は全市平均よりかなり高い。

国語・算数ともに、昨年より少し向上し、学力層の底上げが見られる。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

- ・国語科においては、好き、大切だと思う、という児童の割合が学校全体としては変わらず、めあてや相手に沿って分かりやすく話している、と答えている割合もほぼ変わらない。重点研で培ってきた「思いを伝えること」はできてきていると考えられる。
- ・算数科においては、4年生以上になると好きだと答える児童の割合が減少する。授業で自分の考えを図や式、言葉で説明しようとしている割合が減っている。言語活動の充実、間違っても堂々と理由や根拠を示して説明することをさせていく必要がある。今年度、算数の授業で勉強したことを普段の授業で使おうとしていると答える児童の割合が増えた。これは、身近なことから考える取り組みの成果ではないかと考えられる。

3 平成30年度 学年・教科等としての具体的取組

1 学年

- 分からないこと、詳しく知りたいことを尋ねたり、気持ちを表情や態度、言葉で表したりしながら対話するように指導する。
- 1日10分、復習プリントに取り組むように指導する。

2 学年

- 「話す、聞く、書く」といった学習の基礎・基本の指導を確実に行う。
- 生活科等の体験的活動を通して、自分の考えをもち、それらを自分の言葉や文章で表現できるように指導する。
- 1日20分以上、自分から進んで学習に取り組めるように指導する。

3 学年

- 各教科において、自分の意見を理由や根拠とともに述べることにできるように指導する。
- 友達の意見を聞いて自分の考えと比べながら聞くことができるように指導する。
- 1日30分、その日の学習の復習をするように勧める。

4 学年

- 算数・理科等で説明する文章、記録・報告する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。
- 相手の考えを取り入れ自分の考えを述べて話し合うように指導する。
- 1日40分、今日の復習等に取り組むよう指導していく。

5 学年

- 各教科に体験的な活動を多く取り入れ、実感を伴った学習内容の理解を目指し、基礎学力の定着を図る。また、意見を述べる文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。
- 1日50分、今日の復習、自主学習に取り組むよう指導していく。

6 学年

- 教科等の学習で今まで身に付けた様々な文章を書く力を自覚的に生かすことができるようにするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。自分の意見を根拠とともに堂々と発表できるように支援する。
- 1日1時間、復習と共に、自ら課題意識をもって学習に進んで取り組めるよう指導していく。

個別支援学級

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を位置付ける。
- 子どもの発達段階に応じて、各学年の取組を参考にし、必要な取組を行う。
- 子どもに応じた分かりやすい情報発信をするなど、言語環境の整備を行う。